

國學院大學学術情報リポジトリ

日本語教育のためのオノマトペの研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡谷, 英夫, Okaya, Hideo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002497

岡谷 英夫 提出 学位申請論文

『日本語教育のためのオノマトペの研究』 審査報告

論文の内容の要旨

本論文は、日本語学習者にとって必要なオノマトペの語彙を考察するために、日本の児童生徒が学ぶ小学校・中学校・高等学校における国語教科書から現代語による話し言葉・テレビ番組・漫画にいたる言語生活の資料を対象として各資料におけるオノマトペの語彙の全数調査を行ない、計量言語学の手法により、「使用率順または頻度順の語彙表」、「使用率分布図」、「累積使用率分布図」、「頻度分布表」および「頻度分布図」にそれぞれまとめ、傾向を視覚的に図示した上で日本語学習者のためのオノマトペのリストを求めて検討した研究である。本論文は序章、第Ⅰ部「国語教科書および日本語教科書における使用状況からみた日本語教育とオノマトペ」(6章)、第Ⅱ部現代語(言語生活)におけるオノマトペの使用実態(3章)、終章の11章によって構成される。

序章「研究の動機と先行研究」では研究の動機と目的、先行研究を概観した上で、オノマトペの定義など本論文で使用する用語について定義している。

第Ⅰ部は第2章「小学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」、第3章「中学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」、第4章「高等学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」、第5章「国語教

科書を資料とした日本語教育のためのオノマトペリストの提案」、第6章「高等学校国語教科書における文章形態ごとのオノマトペと日本語教育」、第7章「日本語教科書および日本語能力試験公式問題集に現れたオノマトペ」の6章で構成されている。第2章では、初級日本語学習者を主な対象として、小学校国語教科書に現れるオノマトペの語彙調査を行ない、オノマトペの異なり語数は1,045語、延べ語数は6,276語であると指摘している。語彙調査の結果から使用頻度と使用範囲をもとに初級日本語学習者のためのオノマトペリスト(78語)を提案し、さらにオノマトペリスト記載の語について擬音語と擬態語の出現頻度と比率を示している。第3章では、中級日本語学習者を主な対象として、中学校国語教科書に現れるオノマトペの語彙調査を行ない、オノマトペの異なり語数は731語、延べ語数は3,889語であると指摘している。語彙調査の結果から使用頻度と使用範囲をもとに中級日本語学習者のためのオノマトペリスト(87語)を提案し、さらにオノマトペリスト記載の語について擬音語と擬態語の出現頻度と比率を示している。第4章では、上級日本語学習者を主な対象として現代文を対象とした高等学校国語教科書に現れるオノマトペの語彙調査を行ない、オノマトペの異なり語数は941語、延べ語数は11,367語であると指摘する。その上で使用頻度と使用範囲をもとに上級日本語学習者のためのオノマトペリスト(124語)を提案し、擬音語と擬態語の出現頻度と比率を示している。第5章では、全級の日本語学習者を主な対象として小学校・中学校および高等学校国語教科書に現れるオノマトペの語彙調査により、異なり語数は1,619語、延

べ語数は 21,532 語であると指摘している。使用頻度と使用範囲をもとに全級の日本語学習者のためのオノマトペリスト (122 語) を提案し、さらに擬音語と擬態語の出現頻度と比率を示している。また、オノマトペリスト記載の語に共起する動詞の種類と多義のオノマトペの意味ごとの数量を示している。第 6 章では、文章形態が明示されている高等学校国語教科書に現れたオノマトペの調査を行ない、異なり語数は 918 語、延べ語数は 10,598 語であり、その内訳は文学的な文章の異なり語数は 813 語、延べ語数は 8,352 語、論理的な文章の異なり語数は 308 語、延べ語数は 1,729 語、実用的な文章の異なり語数は 110 語、延べ語数は 517 語であると指摘している。また、「文章形態ごとのオノマトペの数量等の内訳」「文章形態ごとの頻度・使用率順の語彙表」としてまとめ、さらに、オノマトペが最も多く現れた「文学的な文章」の内訳である「詩歌」「小説」「随筆」ごとの数量等を示している。第 7 章では、6 種の日本語教科書に現れたオノマトペの数量は、異なり語数 174 語、延べ語数は 992 語であり、日本語能力試験公式問題集に現れたオノマトペの数量は異なり語数は 35 語、延べ語数は 81 語であると指摘している。また、学習項目の調査から、日本語教科書と日本語能力試験公式問題集におけるオノマトペの扱われ方に差異があることを明らかにしている。

第Ⅱ部は第 8 章「話し言葉に現れたオノマトペと日本語教育」、第 9 章「テレビ番組におけるジャンル別話し言葉に現れるオノマトペと日本語教育」、第 10 章「漫画『サザエさん』に見るオノマトペと日本語教育」の 3 章で構成されている。第 8 章では、294 の会話により構成されてい

る『BTSJ』による日本語話し言葉コーパス(トランスクリプト・音声)2011年版』に現れたオノマトペの使用実態を調査し、異なり語数は496語、延べ語数は2,467語であると指摘している。また、オノマトペの数量、場面別の会話(「母語話者同士の会話」「かしこまった場面の会話」「母語話者同士の電話での会話」および「母語話者と学習者の会話」)に現れたオノマトペの使用実態を明かにし、会話に現れた「そろそろ」「めっちゃくちゃ」および「むちゃくちゃ」等の特徴的なオノマトペの使用実態を示している。さらに、話し言葉に現れたオノマトペの擬音語と擬態語の出現頻度と比率を示している。第9章では、日本で生活している留学生や来日しているビジネスパーソンとその家族等の日常生活に、密接に関係していると思われる3ジャンル(「きょうの健康」「気象情報」および「きょうの料理」)のNHKのテレビ番組1年間分を録画・録音し、文字化した上で調査して、全ジャンルに現れたオノマトペの数量は、異なり語数825語、延べ語数8,957語であると指摘している。各ジャンルに現れたオノマトペの数量は、「きょうの健康」の異なり語数216語、延べ語数1,500語、「気象情報」の異なり語数73語、延べ語数528語、「きょうの料理」の異なり語数737語、延べ語数6,929語であると指摘し、擬音語と擬態語としての出現頻度と比率を示している。第10章では、漫画『サザエさん』45冊に現れたオノマトペの語彙調査を行ない、異なり語数566語、延べ語数2,388語であると指摘し、高頻度の92語を示している。『サザエさん』に現れたオノマトペのうちの擬音語と擬態語としての出現頻度について、擬音語は延べ語数の69.10%を占め、擬態

語は延べ語数の 30.90% を占めており、擬音語の出現比率が擬態語の出現比率の 2 倍以上であり、擬音語の使用が著しいと指摘している。『サザエさん』のオノマトペ学習の教材としての適否を検討してオノマトペ教育に有効な教材であること示している。

第 11 章「終章」では本論文から得た結論を述べた上で、今後の課題を述べている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、日本語学習者にとって習得困難とされる日本語のオノマトペを効果的に習得するために適切な語彙のリストアップを求めて、主に日本の小学校・中学校・高等学校における国語教科書、および現代語の言語生活を反映する資料を選定して使用されているオノマトペの全数調査を行なった研究である。その分析は計量言語学の手法によって「使用率順または頻度順の語彙表」「使用率分布図」「累積使用率分布図」「頻度分布表」および「頻度分布図」にそれぞれまとめ、傾向を視覚的に明瞭に図示した上で頻度と使用範囲から全てのレベルの日本語学習者を対象とした有効なオノマトペリストを提案しており、日本語教育の論考として高く評価することができる。ことに、初級・中級・上級、全級の日本語学習者を対象としたオノマトペのリストは、それぞれのレベルでどのようなオノマトペをどの程度学習したらよいのかの目安として有益な指標となるものである。

序章では、先行研究を挙げ、本論文で用いる用語について定義しているが、日本語教育においてオノマトペの習得に積極的な立場と付随的な項目として二次的に捉える立場について、オノマトペをめぐる日本語教育の現状を踏まえた上で本論文のテーマの必然性を述べることが望まれる。

第Ⅰ部第2章では初級日本語学習者の学習すべきオノマトペを検討するために小学校の国語教科書を資料として詳細に調査して分析した手法が評価される。ただし、日本語学習者は初級であっても年少者ではない場合が多いため、年少者日本語教育の現状も踏まえて教材の内容話題が成人である初級日本語学習者に相応しいか、また使用される語彙が初級日本語のレベルと並行移動して一致するかについて小学校・中学校・高等学校の国語教科書全体において検討し、小学校の国語教科書の日本語教材としてのレベルの検討を加えた上でオノマトペのリストについて考察する必要があるだろう。初級日本語学習者のためのオノマトペリストも効果的な学習のために有益であるが、頻度分布表における頻度によって線を引いた論拠についてより明確な説明を加えることが望ましい。第3章でも詳細な語彙調査によって中級学習者のためのオノマトペリスト 87語が提案されていて日本語教育にとって有益であるが、中学校の国語教科書が中級に相当するか否かの考察が必要になる。本論文では、小学校から高校までの国語教科書を対象とする場合にジャンルの相違を認めて頻度が高くても使用範囲が狭いオノマトペを除外しているが、「ずいこずいこ」のみならず汎用的な「ぐったり」などまでもが除外されることになるので個別的な検討が必要であろう。また、小学校・中学校の各リ

ストにまたがって「はっきり」「ゆっくり」「しっかり」が上位にあるが、学校教育全体を通じての分析をした上で検討して、日本語教育用のリストとしては、初級と中級との重出を避ける形で提示することが望まれる。第4章では、高等学校の国語教科書を詳細に分析して上級日本語学習者のためのオノマトペリスト 124 語が提案されており、実態に基づくデータとしては非常に有益である。小中学校と重複する語は除外して上級の語彙のみを選定した方がスタンダードであり、初級・中級・上級それぞれのリストにすれば、より日本語教育の現場で実践的に使用しやすく、妥当性のあるリストになると考えられる。第5章では、小学校・中学校・高等学校の教科書における全てのオノマトペの調査に基づいて全級の使用率分布図を求めた上で、全級の日本語学習者のためのオノマトペリスト 122 語を提案しており有益である。共起する動詞とその頻度、および多義オノマトペの意味ごとの数量が示されており、ともに今後のさらなる研究の発展が見込まれる。第6章では、高等学校の国語教科書の文章形態によるオノマトペ、ことに擬音語と擬態語の使用頻度の相違を分析しており、日本語学習者が文章を生産する際に援用すべき知識としても有益である。第7章では現在広く使用されている日本語教科書と日本語能力試験公式問題集におけるオノマトペについての調査であるが、しばしばオノマトペの学習を避ける日本語学習者によって理由として挙げられる日本語能力試験における出題が少ない点がこの調査のことにN5・N4の状況からも裏付けられており、今後のオノマトペの教授法を考察する上で参照すべき情報となっている。

第Ⅱ部第8章では、自然会話である「BTSJ」による日本語話し言葉コーパス（2011年版）」におけるオノマトペの使用実態の調査がなされており、特徴的なオノマトペとして、使用場面によっては学習者の不利益になる「めっちゃ」を含む「めちゃくちゃ」など3語に考察を加えているのは有益である。第9章では、テレビ番組のうち健康・気象・料理番組におけるオノマトペを調査しており、なかでも学習者にとってはことに健康番組におけるオノマトペは緊急時に有用であるが、ジャンルの選定を含めてこの章の内容だけで独立した研究として発展する性格を孕むものである。第10章では、漫画『サザエさん』を資料としてその使用実態を調査してオノマトペの多用を指摘しているが、漫画についてはオノマトペを含む語彙の研究史を踏まえた考察が必要となろう。

第11章は、本論文の終章として結びと今後の課題に言及しているが、全体を通じて、第Ⅰ部における国語教科書を精査した日本語学習者のためのオノマトペリストの提案に、第Ⅱ部における現代日本語の話し言葉における実態調査との相関を踏まえた考察および、本論文では触れられていないが、個々のオノマトペについての学習者の習得状況調査や、未知でも推測のききやすさについての考慮等を加え、論文の構成として語彙調査と語彙選定の提案、語彙提供の方法の提案を分ければ論旨がより明快になり、かつ説得力を増すと思われる。

本論文は以上のように再考を要すべき点も含まれるが、それ以上に第Ⅰ部・第Ⅱ部に亘る詳密で精力的な分析によって日本語学習者のための実用的なオノマトペの研究として高く評価することができる。

よって、本論文の提出者、岡谷英夫は、博士（文学）の学位を授与せられる資格があるものと認められる。

令和2年11月27日

主査 國學院大學教授 諸星美智直 ㊞

副査 國學院大學教授 菊地康人 ㊞

副査 國學院大學教授 吉田永弘 ㊞

岡谷 英夫 学力確認の結果の要旨

下記三名が各専門分野からそれぞれ学力確認の試験を行った結果、
博士（文学）の学位を授与される学力があることを確認した。

令和2年11月27日

学力確認担当者

主査 國學院大學教授 諸星 美智直 ㊞

副査 國學院大學教授 菊地 康人 ㊞

副査 國學院大學教授 吉田 永弘 ㊞